

## 平成29年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 教授

氏名： 吉富 望

研究課題	グローバルセキュリティと災害マネジメントの両領域を一体的あるいは個別に安全保障・危機管理の視点から分析し、政策提言の糸口を見出す。	
報告の概要	研究目的及び研究概要	<p>平成29年度個人研究費に関わる研究目的は下記の三つであった。</p> <p>① グローバルセキュリティ領域：南シナ海の海洋安全保障のための包括的な能力構築支援における多機関連携</p> <p>② グローバルセキュリティと災害マネジメントに跨る領域：新たな多目的輸送艇による地域安定化への寄与</p> <p>③ 災害マネジメント領域：東アジア地域での災害救援における多国間協力</p> <p>研究に当たっては文献研究を中心に行った。文献研究以外では、国内外での学会、研究会、講演会、防災訓練等への参加を通じて関係者との意見交換を行うとともに現場の実情を把握することに努めた。</p>
	研究成果	<p>研究目的①については、主として文献研究を行い、その成果の一部をWedge Infinityに投稿した。</p> <p>研究目的②については、主として文献研究を行ってMAST Asia 2017に参加し、研究内容を発表するとともに国内外の関係者と意見交換を行った。また、iRONNA及び月刊正論への投稿に当たっては、研究成果を踏まえて大量避難民対処時における多目的輸送艇の価値についても言及した。</p> <p>研究目的③については、主として文献研究を行い、その成果を片山裕編著『防災をめぐる国際協力のあり方』に掲載することができた。また、米太平洋軍隷下の研究所APCSSの監修する雑誌に記事を掲載することができた。加えて、日本看護管理学会では研究成果を踏まえつつ、リーダーシップに焦点を当てた発表を行った。</p>
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	①著書：吉富望「第11章 自衛隊による災害救援・防災協力の今後」片山裕編著『防災をめぐる国際協力のあり方』ミネルヴァ書房、2017年7月30日、203-220頁。
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	①学会発表：吉富望「災害時に求められるリーダーシップをいかに獲得するか」第21回日本看護管理学会学術集会、2017年8月19日、パシフィコ横浜。
	・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等	<p>①雑誌投稿：吉富望「武装難民を「射殺するか」麻生発言のリアリティー」月刊正論12月号、2017年11月1日。106-111頁</p> <p>②雑誌投稿：Nozomu Yoshitomi, "Japan's Disasters", Disaster Response Regional Architectures: Assessing Future Possibilities, 11 September, 2017, pp.45-51.</p> <p>③ウェブサイト投稿：吉富望「海上自衛隊最大の護衛艦「いずも」と陸自をコラボさせよ」Wedge Infinity, 2017年4月5日。</p> <p>④ウェブサイト投稿：吉富望「北朝鮮有事は「想定内」 在留邦人退避のためにまずやるべきこと」iRONNA, 2017年5月7日。</p> <p>⑤講演会：Nozomu Yoshitomi「New Amphibious Connectors requirment for Japan Self Defense Forcess」MASTAsia2017、2017年6月13日、幕張メッセ。</p>